

3月末に迦の森こども保育園が開園 当社が厨房設備工事を完成



当社は、(株)三喜(門真市末広町32-2、社長・樋口成泰氏)が3月末に開園した「迦(か)の森こども保育園」(四条畷市清滝中町30-7、写真)の厨房設備工事を完成しました。(株)ケイ・ジェイ・ワークス(箕面市)を通じて受注したものの。(株)サンキ(社長・同氏)が同じ、内閣府所管企業主導型保育事業施設として昨年10月に「榎(なぎ)の木保育園」(四条畷市)を開園しており、同グループとしては2番目。

待機児童に向けて、政府が平成28年度にスタートさせた「企業主導型保育事業」は、企業が主に従業員向けに整備する保育所で、保育士の人数など一定の基準を満たせば、企業や団体に助成金が交付されたり、税の減免措置などが受けられたりする制度。政府が即効性の高い待機児童解消策として導入したもの。

同園は「園名の“迦”の字には“つどい・集まる”という意味があり、子供がここにつどい、家庭のような温かな雰囲気の中で子供らしさを大切にしながら過ごせるように保育する」(樋口博美会長)のが特徴。

今話題の本

弁護士の傍らTVなどで活躍しているケント・ギルバート氏の『日本人だけが知らない世界から尊敬される日本人』(SBクリエイティブ刊、新書判、191頁、800円+税、写真)がベストセラーになっている。世界から尊敬されながらも、日本人だけがその実力を知らずにきた偉大なる先人たちの系譜に、日本在住40年の著者が光を当てた渾身の1冊。



世界を舞台に偉大な足跡を残した自国の英雄について、なぜ日本人だけが知らないのか。その裏には、19世紀末に西欧社会で蔓延し、今なお海外における日本人の活躍を阻み、過小評価する思想「黃禍論」(こうかろん)があると著者は指摘。盛田昭夫はじめ安藤百福、小林一三、高峰譲吉、南方熊楠、屋井先蔵ら15人の功績を明らかにし、独自の日本人論を展開している。

雑誌『致知』による「社内木鶏会」 3月例会で1周年迎える 各自のレベル大幅アップ



昨年3月に始めた、雑誌『致知』による読書会「社内木鶏会」が、3月29日の第13回例会で満1周年を迎えました(写真)。

この会は、『致知』をテキストとして学び合い、人間力や基礎力(読む・書く・話す・聴く)を養い合うことによって、社員のレベルアップ、会社の業績向上を目的にしているもの。

初めの内は戸惑いもあってスムーズにいかないこともあったが、会を重ねるに従い、読書感想文のまとめ方や発表の仕方が各段に進歩し、各自のレベルが上がっているのは間違いないようです。

運が開ける！名経営者のすごい言葉 (37)

「ナンバーツーでは生き残れない」

- ◎地位は安泰
その時どう改革を進めるか。
- ◎視線を業界から国全体へ
国内から国外に広げる。
(サムスングループ会長)
イ・ゴンビ(1942～)
(PHP研究所)

常岡 一郎 一言

14

嵐をこえる
明治天皇の御製に
嵐ふく世にも動くな人こころ
いわおに根さす松のごとくに
と教えられている。嵐のふく日に一番恐ろしいのは、嵐そのものではない。嵐にまき込まれてついて行くような根の弱さ、これが一番恐ろしいことだと教えていられる。どんな嵐でも、一年中ふき通したという嵐は一度もない。嵐はきつと止む。一夜で過ぎ去る。だから嵐について行くな。岩の上に根をはった松のように根強くなれ。岩の上に根を強く張れ。あわてるな。心の明るさ、広さ、豊かさを守れ。こう教えられている。
(常岡 一郎 著 致知出版社刊)